

古より仏教の室つふへん

一 嵯峨寺

嵯峨寺なりいよ——いよえよ——いよえよと皇
室といふに梵字のカニニをさるうとしり
ともいふを年陰寺と干波珠寺と改なり
古陰寺といふ嵯峨珠寺とありきを年陰徳
寺陰記をさして當るに新附と未見の中
能因の孫掛石西行様なりといふあり波の
ころる時いふ水上は映も象浮の様は浪は
埋めて花のころる海士の初めとよめれ

五つて之を陽寺の十首の歌なりとあれた鑑
それハ略之を代芭蕉翁も

嵯峨の雨や西施り合款の花

と吟をりつ人は石に彫刻を古人皇宮
ふ嵯峨寺と号するは工古 神功皇后之
韓征伐の付け而より波をさるうといふ小皇
宮ふと稱をさるうは干波珠の二顆と
稱をさるうといふ(大略附会の説なりて伝
用するに是に三韓征伐の附記は案より矣
西(波)をさるう事日本紀并法書に載る